

これから小学生になるお子様の保護者の皆様へ

ご挨拶

はじめまして、私は、市村 裕子（いちむら ゆうこ）と申します。

この4月1日に、東京都立立川地区小中高一貫教育校（仮称）開設準備室の校長として着任しました。開設準備室のスタッフは、教育系スタッフとして副校長1名と教員2名、事務系スタッフとして経営企画室¹の職員が複数名おり、教育系と事務系が連携して開校に向けて取り組んでいます。本校は、公立では全国初となる小中高12年間の一貫教育校で、2年間の準備期間を経て、令和4年4月に開校予定です。



学校を一から創る、それも12年間という義務教育とその先の高校教育を併せた初等中等教育の全てを一貫した学校を創る、これは大変な責任を伴うことであるとともに、素晴らしいことです。私は開設準備室の校長として、2年後に本校にお迎えするお子様の顔を思い浮かべながら、日々、スタッフと共に新しい学校づくりに邁進しています。

本校の設置の経緯

平成25年4月に東京都教育委員会は、世界で活躍する人間の育成に向けた新たな教育モデルを構築するため、「都立小中高一貫教育校基本構想検討委員会」を設置し、平成27年11月に基本的な構想を取りまとめました。その後、学校教育法の改正や新しい学習指導要領の告示など国の動向を鑑み更に議論を重ね、平成29年3月に、教育内容等を報告書にまとめました。

（詳細は、[「都立小中高一貫教育校の設置に関する検討結果」](#)及び[「都立小中高一貫教育校教育内容等検討委員会報告書」](#)をご覧ください）。

わたしたちは、これらの検討結果や報告書に基づき、小学校段階から高等学校段階までの12年間という期間を一体として捉え相互に関連した教育内容について具体的に検討しています。

わたしたちの思い(教育理念)

教育の究極の目標は、「自立」であると考えます。

わたしたちの学校では、入学したお子様が自立した学習者となり、自分で発想して考えを深め、自分で選択して未来を切り拓き、身に付けた力を自分のためだけでなく、人や社会のために活用して、将来は、よりよい世界の実現に向け、国際社会で活躍し貢献する人になってほしいと考えています。

本校に入学したお子様が、自立した人となって本校を巣立ち、勇気をもって広い世界に飛び立てる心と力をもつよう、わたしたちは、多様な教育活動や指導上の工夫を取り入れ、強力にサポートしていきます。

¹ 都立学校では、学校事務を担当する事務職員の組織を「経営企画室」と呼称し、校長の経営計画を実現するための重要な役割を担う組織に位置付けています。

わたしたちの教育の特色(考え方)

教育活動の大きな柱は、「探究的な学びの推進」と「語学力の育成と言語能力の向上」です。

(1) 探究的な学びの推進

① 日々の学習における探究的な学び

全ての学習のベースに取り入れます。「学習者に教える」指導ではなく、「学習者が自ら気が付く・発見する」指導を行います。自立した学習者になるためには、自分で気が付いたり、発見したりすることによる喜びが必要だと考えるからです。学習者が自分で気が付いたり、発見したりする学びのプロセスを認識すること（メタ認知）ができれば、新たな学習や学習の次のステップに自分で進もうとする意欲や勇気がわくはずです。そうやって新たな学習や学習の次のステップに進んだとき、それまでの方法ではうまくいかないことがあることに気が付きます。そこが「分からないこと」「知る必要があること」であり、何が分からないのか明確になることで、質問力が向上し、更なる学びへとつながっていくと考えています。

② 探究学習プログラム

第1・2学年では「生活科」、第3学年から第9学年までは「総合的な学習の時間」、第10学年から第12学年までは「総合的な探究の時間」を活用し、「12年間のつながる探究プログラム」を実施します。第10学年（高校1年生段階）では、集大成として約3か月間のリーダーシップ・アクションプログラム（仮称）²を実施し、第11学年では探究活動の成果を学校内外で発信し、第12学年ではキャリアプラン（進路実現）に向けて活用します。

(2) 語学力の育成と言語能力の向上

語学力の育成は、よりよい世界の実現に向け、世界の人々と協働し、世界を舞台に活躍し国際社会に寄与するために必要となるツールとしての英語力の育成のことです。語学はツールであり、大切なことは、そのツールを活用して何を発信するのかということです。

本校では、言語学習のための学習から一步進めて、言語と内容を統合して学ぶ CLIL（内容言語統合型学習）的な指導により語学力を育成します。あわせて、その語学力を支える土台となる言語能力（特に第一言語）の向上を重視します。言語能力は、思考する力、情報を整理・分析する力、発信する力など、ものごとを探究する際に必要となる力を下支えする欠かせない力でもあります。

校舎 ※ 令和4年夏頃完成予定です(それまでは仮設校舎での学校生活となります)。

本校の開校に当たり、東京都立川市にある都立立川国際中等教育学校の道路を挟んで南側の敷地に新たな校舎が建設されます。校舎の完成は、令和4年の夏頃を予定しており、それまでの期間（およそ1学期間）は、立川国際中等教育学校側に建てられる仮設校舎での学校生活となります。校庭（グラウンド）の完成は、令和5年夏頃を予定しています。一期生の皆さんには、校舎や校庭の完成を待ちながらの学校生活となります。その点をご了解いただき、本校の入学をご検討いただきますようお願いいたします。

² 国内における事前研修と、海外における調査研究やボランティア活動（30日間程度を予定）、帰国後の成果発表を含めた全員が参加する約3か月間のプログラムを予定しています。

入学者決定方法

(1) 募集人数及び通学区域

- ・**募集人数** 小学1年生80名（男子40名、女子40名）
※ 中学校段階で更に80名（男子40名、女子40名）を募集します。
- ・**通学区域** 小中高一貫教育校までの所要時間が40分以内にある鉄道の駅やバス停を含む区市町村又は地域（お子様の負担過重とならないようこのように定めています。）

(2) 検査等

抽選と適性検査により入学者を決定します。適性検査のサンプル問題を令和2年に実施する説明会でご説明する予定です。説明会の日程等は、本ウェブサイト「2 学校案内」をご覧ください。

(入学者決定方法に関しては、「[都立小中高一貫教育校入学者の決定方法に関する検討委員会報告書](#)」も併せてご覧ください。)

最後に ※ 本校に入学するお子様の姿

ここまでお読みいただきありがとうございました。

本校に入学するお子様には、ぜひ、日頃から様々な体験をしていただきたいと考えています。

例えば、季節の移ろいを五感で直に感じて自然の偉大さに感動したり不思議に思ったり、日本の伝統的な行事や地域の行事にふれて人々の営みやつながりを知ったり、絵本などの読み物や遊びを通じて想像のつばさを広げたり言葉を豊かにしたり、積み木や折り紙など身の回りの多様な素材を使って形の面白さに気が付いたりものを形作ったりなど、お子様にとって日々の暮らしや世界は、発見と気づきで満ちていることと思います。そういった発見や気づきを大切にして「なぜ、どうして」と問いかける、自分なりに答えを導こうと行動する、人やものを自分の友達として大切にする、そういったお子様の姿を思い描いています。

保護者の方には、今後も、どうぞお子様の好奇心や考えている姿を大切にしていただき、サポートしていただければと思います。

令和4年4月に、わたしたちの学校で学ぶお子様と会えるその時を、スタッフ一同、心からお待ちしています。



令和2年6月
市村裕子